

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における
八枝 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

八枝 小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

・本校の結果

国語A	全国平均正答率を下回っている。
国語B	全国平均正答率を上回っている。
算数A	全国平均正答率を上回っている。
算数B	全国平均正答率を上回っている。

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	算数A	算数B
平成24年度	本市	79.4	52.2	70.4	56.1
	全国	81.6	55.6	73.3	58.9
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
平成26年度	本市	69.1	52.6	76.2	55.4
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、読むことは基礎ができていた。 ・言語についての知識・理解・技能に課題があり、日常的に国語辞典を使うことを習慣化する必要がある。
	よくできた問題	文の意味のつながりを捉え、適切なものを選択する問題は正答率が高い。
	努力が必要な問題	故事成語の使い方として適切なものを選択する問題は正答率が低かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をやや上回ることができた。昨年度より無解答率が全国平均よりも高かった問題数が若干増えた。 ・文章の内容について、要点をまとめて、自分の考えを書く問題に課題がある。
	よくできた問題	・課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読む問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書く問題が正答率が低かった。

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回ることができた。基本的な内容の定着が図られつつある。 ・数量や図形についての知識・理解を今後更に高めていく必要がある。
	よくできた問題	・体積の単位と測定についての問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・異分母の分数の加法の計算をする問題は、全国平均正答率より低かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均を上回ることができた。応用問題に対しても、苦手意識を持たず、粘り強く取り組むようになってきた。 ・数量や図形についての技能が高くなり、応用できるようになった。
	よくできた問題	・繰り返されるリズムの規則性を見だし、それを基に小節数を求める問題は、正答率が全国平均正答率より高かった。
	努力が必要な問題	・示された情報を基に、条件に合う時間を求める問題は、正答率が低かった。

③ 学校での学習状況に関する調査結果

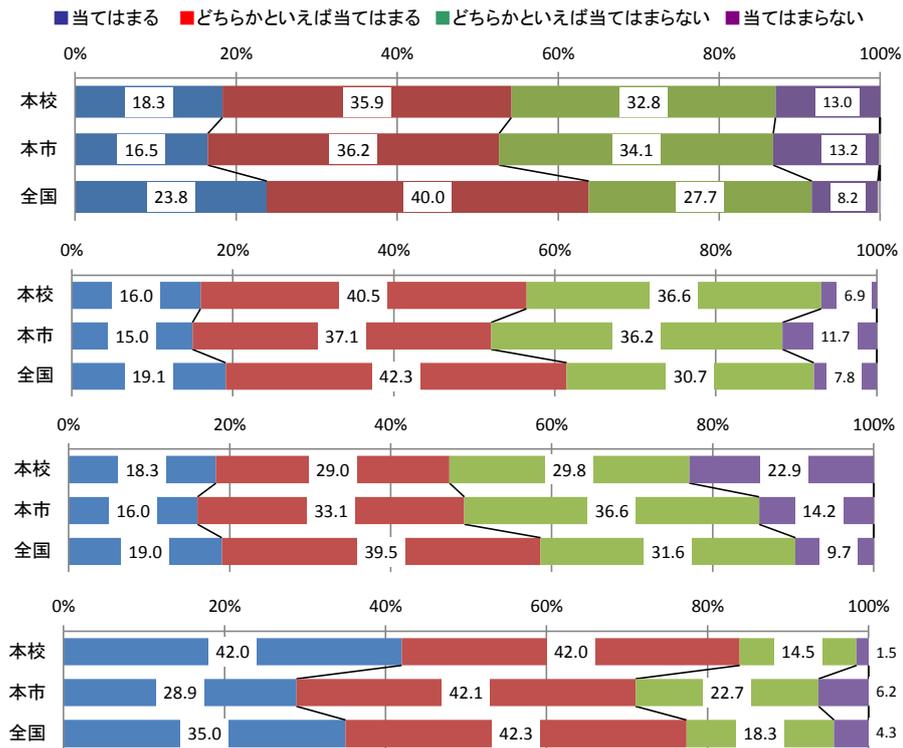
質問番号
質問事項

40
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる

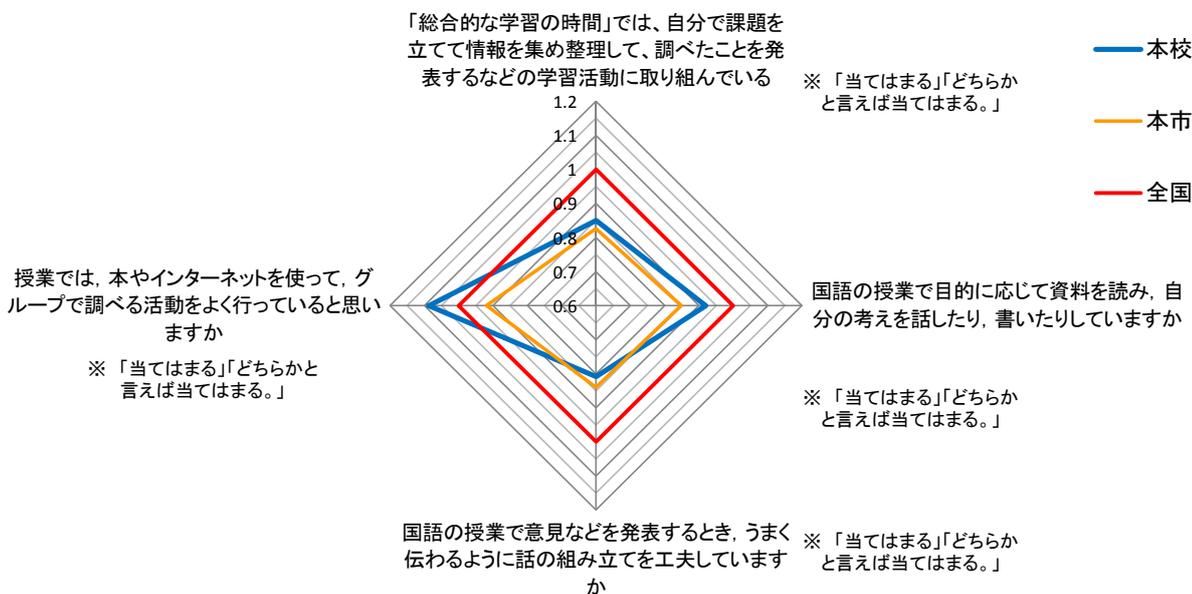
55
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか

56
国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか

41
授業では、本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていると思いますか



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

・発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫している児童は、全国と比較してもその差が広がっている。今後は、授業で話の組み立て方を工夫して発表する機会を増やしていく。

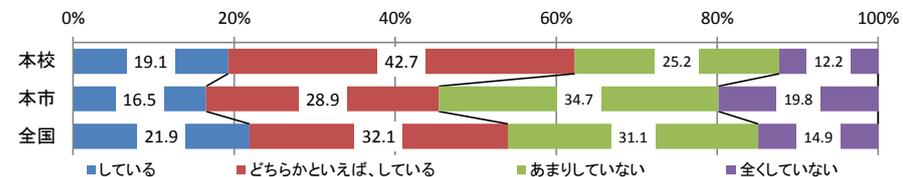
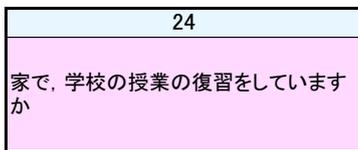
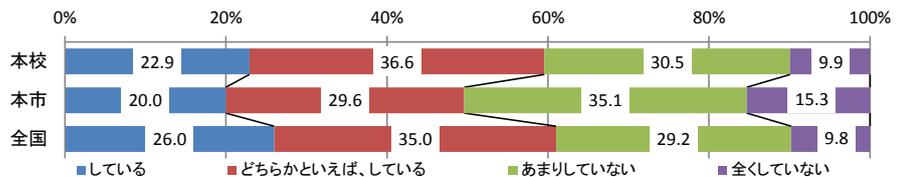
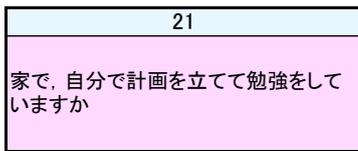
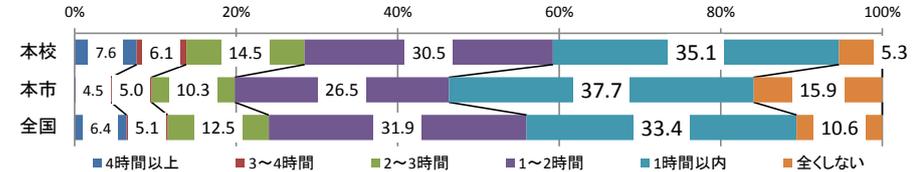
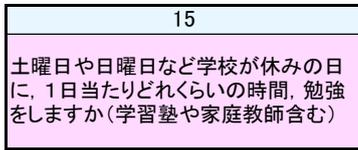
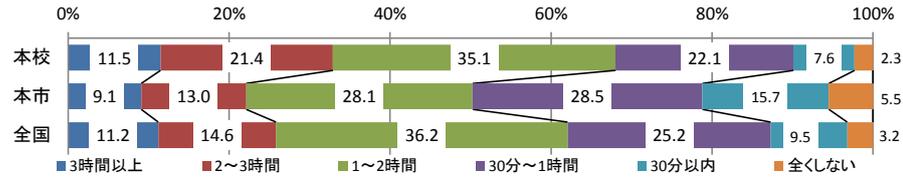
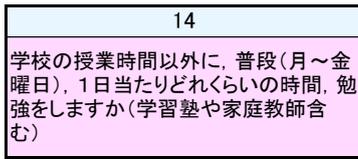
・自分の考えを話したり、書いたりしている児童は、全国平均を下回っているが、年々その差は縮まってきている。自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりにふりかえりを短く書く活動を全校で位置付けている効果の表れだと考える。

・自分で考え、まとめ、発表することに抵抗感を感じている児童を減らすためには、探求的な学習である「総合的な学習の時間」の充実を図る必要がある。

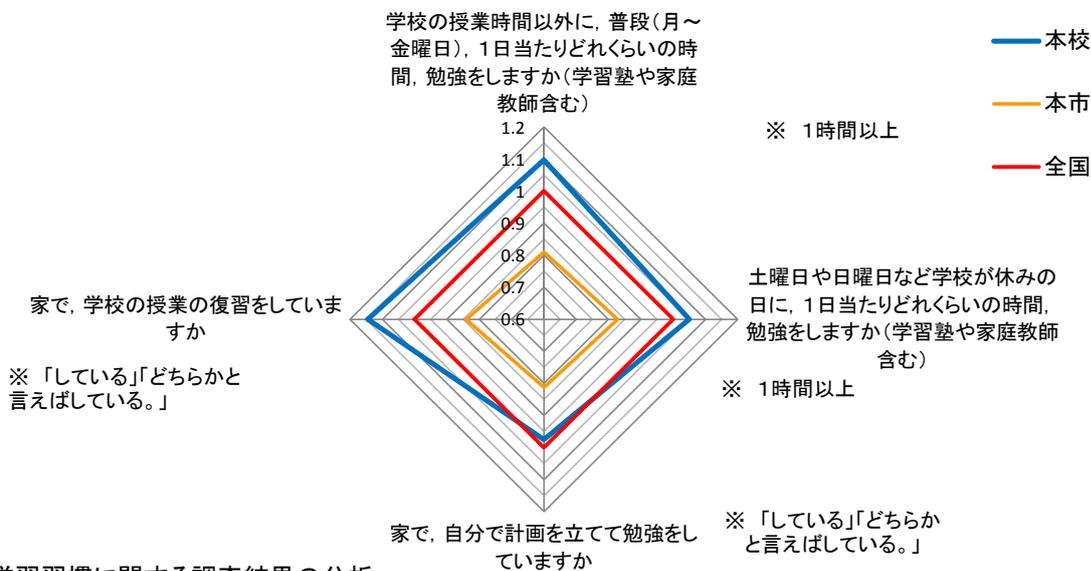
・図書資料やPCを使った調べ学習は、全国平均を上回っており、グループ学習を積極的に行ってきた成果が出てきている。読書が好きな子も全国平均を上回っており、ブックヘルパー等の図書館教育の環境が整っている結果だと考える。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



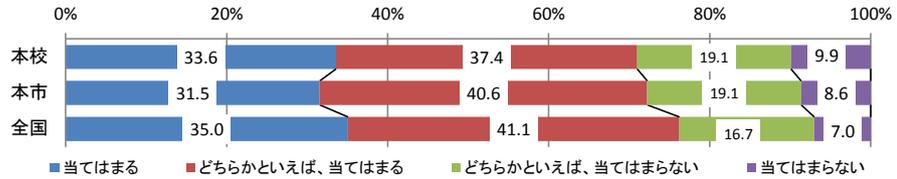
③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・家庭で平日・休日ともに1時間以上家庭学習をしている児童の割合は、全国平均を上回り、年々その割合は増えている。宿題や予習・復習をしている児童の割合も全国平均を上回っている。これは、家庭学習の重要性の啓発を行った結果、児童・保護者がある重要性を理解し、保護者の協力が得ることができ、家庭学習のスタンダード化が図られたためと考える。

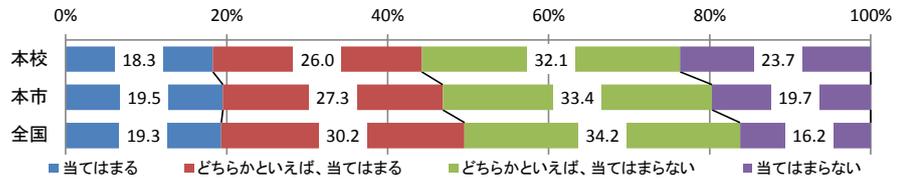
・自分で計画して勉強している児童の割合は、全国よりやや下回るが、年々全国平均との差は縮まってきている。自主学習の仕方等、家庭学習の具体的な取組を引き続き行う必要がある。

④ 生活習慣等に関する調査結果

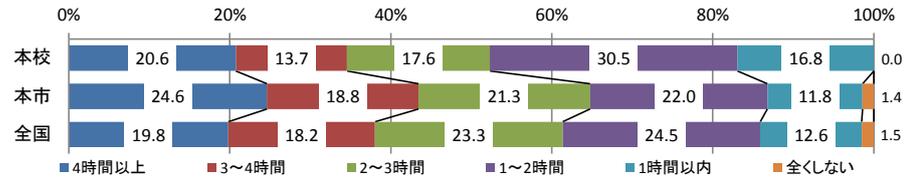
6
自分には、よいところがあると思いますか



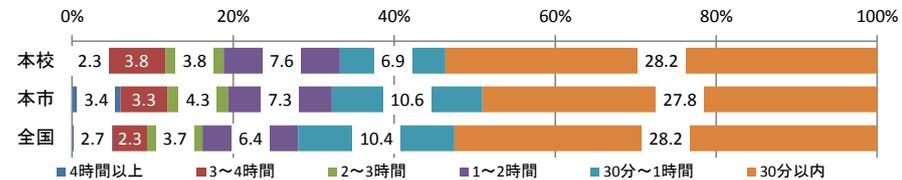
7
友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だ



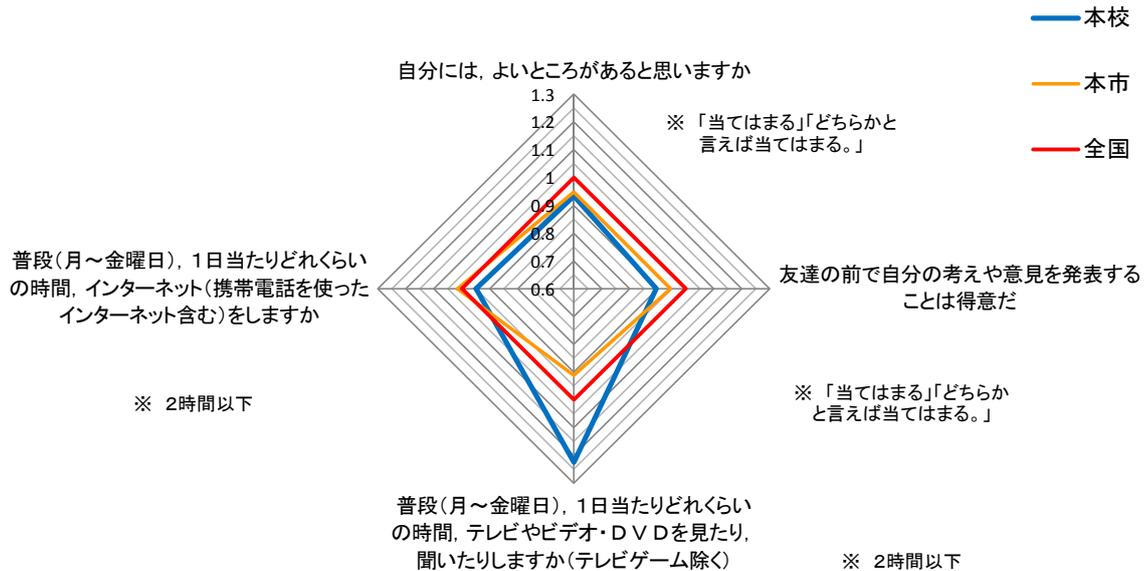
11
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(テレビゲーム除く)



13
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、インターネット(携帯電話を使ったインターネット含む)をしますか



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・テレビ等の接触時間は年々減少している。しかし、インターネット等の接触時間は、逆に増えてきている。特に3時間以上の長時間の利用の割合は増えていた。児童や保護者へのネチケット等、情報モラルの啓発が必要である。

・友達の前で自分の考えや意見を発表することを得意としていない児童の割合が全国平均より下回っている。コミュニケーション能力の育成が課題である。

・自分には、よいところがあると思っている児童の割合が全国平均を下回っている。道徳や学級活動を中心として、一人一人のよさに気付かせ、自尊心や自己有用感を高めていかねばならない。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

◎学力向上のための特設時間の充実

- ・朝自習(毎週水曜日)に「ひまわりタイム」として、音読・暗唱ブック「ひまわり」を活用した全校一斉音読や発音練習の継続実施。
- ・朝自習(毎週火曜日と金曜日)の「がんばりタイム」の時間を言語や数量や図形についての知識・理解・技能の習得時間とし、全校一斉に「漢字の読み・書きや言葉の意味調べ」及び「計算練習等」などの活動をする。

◎算数科に絞った校内研究の実施。

- ・本校研究主題を「基礎・基本の定着を図り、数学的な思考力・表現力を高める算数科学習指導の研究～「見通しをもつ」「自分の考えを説明する」「振り返る」活動の指導の工夫を通して～」とし、これまで、本校が培ってきた言語活動をいかにしながら、表現力の定着を中心に研究に取り組む。

◎「書く」ことの習慣化

- ・『短くさっと書く』を意識させ、めあてやまとめ、ふりかえりを素早く書けるようにする。
- ・学習中のノート指導を大切にす。

◎過去問題、アシストシート等の活用

- ・アシストシートを家庭学習や朝自習等に活用し、答え合わせ・解説・やり直しを行うことによって、基礎基本の徹底を図る。
- ・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題等を活用

○国語辞典をいつも使う環境づくり

- ・3年生以上の学年では、国語辞典の使用を習慣化させるため、教室で国語辞典を使用したいときにすぐに使用できるよう環境を整え、国語辞典を各教科においても積極的に活用できるようにする。

○「話し合う活動」を増やす取組

- ・朝の会や帰りの会等で、スピーチの時間を設ける。
- ・自分の考えを伝え合ったり、説明したりする活動を学習の中に位置付ける。(交流学习やグループ学習、全体への説明など)
- ・学年の発達の段階に応じて、学級会の充実を図る。

○「総合的な学習の時間」の見直しと活動の充実を図る。

- ・探求的な学習活動になるよう年間指導計画の見直しと学習展開の工夫を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

◎家庭学習のスタンダード化

- ・家庭学習の自主的な取組ができるように、自学の仕方を指導する。
- ・家庭学習時間の設定(低・中・高ごと)
- ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用

◎全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知

- ・学校便りや学校HPで家庭へ周知

○情報モラルやマナーの向上にむけての指導や啓発活動の実践

- ・ICTサポーターを活用して、学年の発達の段階に応じた情報モラル授業を全学年実施し、情報モラルの向上を図る。
- ・学校便りや学年通信、懇談会等での機会を利用して、情報モラル・ネチケット向上の啓発活動を行う。

